

# 全国ホームレスハウス調査

## ——自転車日本縦断記——

野田 裕介 \*

Yusuke NODA

An Investigation of Characteristics of Homeless Huts in All Parts of Japan  
Experiences of Traveling up Through Japan by Bicycle

### I はじめに

2015年度大阪市立大学卒業論文と2016年度日本建築学会大会において、私は「ライフスタイルと住まいづくりからみたホームレスハウスの特性」と題して、論文発表を行った。ここでは、武庫川をはじめとした近畿圏のホームレスハウス15軒において、住まいづくりや生活、コミュニティについて調査・分析を行った。現代の住まいづくりにはない、工夫の凝らされた作られ方や、コンパクトな生活、そして周辺環境などによる場所性がみられた。

そこで今回は、作られ方や生活についてより視野を広げるとともに、地域による特性を明らかにすべく、ホームレスハウスの全国調査を行うこととした。

調査日程は2017年8月15日～10月26日の73日間、約2ヶ月2週間。移動手段は自転車、約3000kmの日本縦断調査を行った。

本稿では、前半に今回の調査における現段階での研究概要、そして後半では自転車日本縦断の旅行記を記す。

### II 「ライフスタイルと住まいづくりからみたホームレスハウスの特性 その2」研究概要

#### 1 はじめに

##### 1.1 背景・目的

環境共生型住宅に代表されるように、エネルギー消費を低減し、省力化が図られることが求められているものの、我々の暮らしにおいて、電力や燃料をはじめとして社会システムやインフラ、カネとモノ等に依存する生活や住まいは、ますます比重を高め

ているように思える。持続型社会においては単に資源消費の抑制に留まらずに、依存型の生活から脱却し、生活スタイルそのものを自立的でコンパクトなもの、「弱さの統合」へと転換する必要があると考えられる。本研究は、自立的で、コンパクトな住まいと暮らしを展開するホームレスの人々に着眼し、ホームレスハウスのつくられ方(敷地・配置・形態)の特質と住まい方や人間関係の独自性を明らかにすることで、一般住宅と相対化することを目的とする。

##### 1.2 言葉の定義

###### ホームレス

「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者をいう」(ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法 第2条)と、法律では定義されている。

自分の住処を家と表現している場面が見られるが、都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所としている以上、ホームレスであると定義する。

###### ホームレスハウス

一般的な家と区別するために、本論文では、ブルーシートやダンボール等で作られたホームレスの住処を、ホームレスハウスと表現する。

##### 1.3 調査方法

①厚生労働省「全国ホームレス調査(ヒアリング)調査都市別」において、一定の場所で決まって生活するホームレスの数が都市を中心に調査地域を選定。

②その地域において支援されている方へ調査協力依頼、ヒアリング調査

③その地域で生活しているホームレスの分布の記録、ヒアリング、写真での記録、図面採集

\* 大阪市立大学大学院工学研究科

表1 ヒアリング一覧

都道府県	場所	事例名	基本情報			つくられ方	生活						コミュニティ		特記事項									
			人数	性別	年齢		属性	形状	建物	動物	数	材料	気候への対応	作り変えの経緯		動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	地域との関係		
沖縄県	A公園	OMA1	1男	50代	3年	個人	定住	公園	1	3層	コンクリート、鉄筋	1	コンクリート、鉄筋	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
鹿児島県	A 橋	RIA1	1男	60代	13年	個人	定住	橋の下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
東京都	A川	FOA1a	1男	50代	2年	個人	定住	橋の下	有	2	コンクリート、木	2	コンクリート、木	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		FOA1b	1					橋の下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		FOA1c	1					橋の下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		FOA5	1男	60代	10年	個人	定住	橋の下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
B公園		FOB1	2男1女	60代	10年	家族	定住	公園	有	3	コンクリート、木	3	コンクリート、木	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
広島県	A 郷	HEA1	1男	-	6年	個人	定住	公園	無	0	-	0	-	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
愛知県	A1 A 郷	AA5	1男	60代	-	個人	定住	家裏下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		AA6	3男2女	60代	6年	家族	定住	家裏下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		AA11	1男	60代	-	個人	定住	家裏下	有	0	-	0	-	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		AA14	1女	60代	10年	個人	定住	家裏下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		AA19	1男	61歳	-	個人	定住	家裏下	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
B公園		AB1	1男	-	-	個人	定住	公園	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
静岡県	A 郷	SZB1	1男	74	14年	個人	定住	公園	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
神奈川県	A 郡 厚木	KNA1	1男	63	8年	個人	定住	伊勢林	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
東京都	B公園	KNA2	3男	33	13	家族	定住	伊勢林	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
東京都	B公園	TYB1	1男	70代	3年	個人	定住	公園	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		TYB2	1男	48	14年	個人	定住	公園	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		TYB3	1女	47	13年	個人	定住	公園	有	-	-	-	-	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
埼玉県	A川	SB2	1男	60	17年	個人	定住	河川敷	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
茨城県	A公園	MAA1	1男	60	-	個人	定住	公園	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
		MAA3	1男	60	-	個人	定住	公園	有	1	コンクリート	1	コンクリート	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項
北海道	A 町	HA1	1男	60	-	個人	移動	バスステーション	無	0	-	0	-	気候への対応	作り変えの経緯	動かへの対応	入居	食卓	取入庫	余暇・趣味	他サービスとの交流	コミュニティ	地域との関係	特記事項

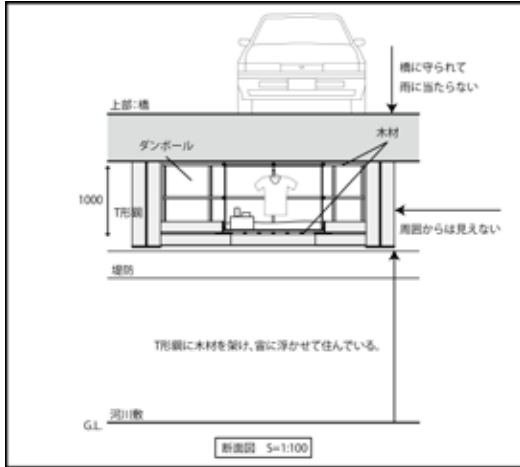


図1 KUB1 断面図

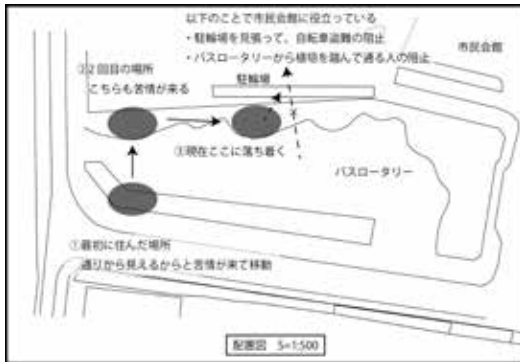


図2 SZB1 配置図

■ 調査件数

調査協力者・・・43名

調査事例・・・12都道府県、109件（うちヒアリング：22件(表1) 写真での外観の記録：76件）(表2)

2 ホームレスハウスの作られ方

2.1 敷地選定

公園、河川敷、橋の下、高架下など公の場を敷地として選んでいる。ホームレスは公共空間の余白空間を利用してホームレスハウス作りを行っている。雨が当たらず日陰にもなる高架下の事例(図1)などの個人のニーズに合わせたものや、行政との関係で来たといった事例[1]（以下[ ]内は表6の数字にあたる）などの様々な外的要因によって選定したものがみられた。

表2 形状一覧

都道府県	場所	事例名	調査件数
沖縄 OK	A 公園	OKA1～3	3
	B 公園	OKB1	1
	C 公園	OKC1～3	3
	D 緑地	OKD1,2	2
	E 公園	OKE1	1
鹿児島 KG	A 橋	KGA1	1
熊本 KU	A 橋	KUA1	1
	B 橋	KUB1	1
福岡 FO	久留米 A 川	FOA1～6	8
	福岡 B 公園	FOB1～3	3
	福岡 C 公園	FOC1	1
	福岡 D 川	FOD1,2	2
	北九州 E 川	FOE1	1
広島 HS	広島 A	HSA1,2	2
兵庫 HG	A 川	HGA1～12	12
大阪 OS	A 川	OSA1～4	4
	B 川	OSB1	1
愛知 AI	名古屋 A 通	AIA1～29	29
	名古屋 B 公園	AIB1～3	3
	岡崎 C 橋	AIC1	1
	岡崎 D 公園	AID1	1
静岡 SZ	浜松 A 橋	SZA1	1
	静岡 B 会館	SZB1	1
神奈川 KN	湘南砂防林 A	KNA1,2	2(約6)
	横浜 B	KNB1	1
東京 TY	A 川	TYA	(約150)
	B 公園	TYB1～6	6(約15)
	池袋 C	TYC1～7	7
	首都高高架下 D	TYD1～12	12
	E 川	TYE1～4	4
	F 公園	TYF	複数
	G 公園	TYG	複数
埼玉 ST	大宮 A 公園	STA1～3	3
	B 川	STB1～3	3(数件)
宮城 MG	仙台 A 公園	MGA 1～4	4
北海道 HK	A 駅	HKA1	1

2.2 配置

自分で決める上に公の場所であるため、さまざまな要因によって配置が決められている。管理者に許して貰える場所を探りながら場所を決めたと言った事例(図2)や、地域の人との関係、他ホームレスとの関係、水場との関係、風通しや木陰などの気候、フェンスなどの住まいづくりに使えるものとの関係を考慮して選んでいる事例(図3)などがみられた。

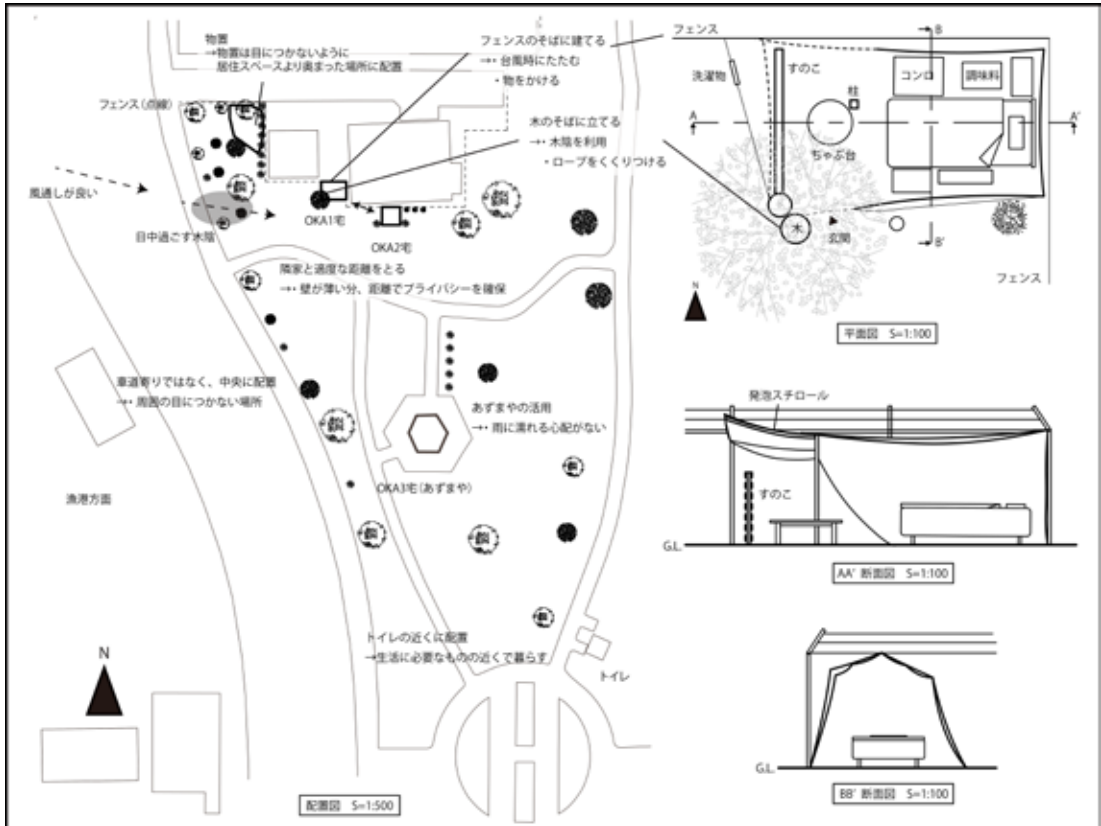


図3  
OKA1 図面

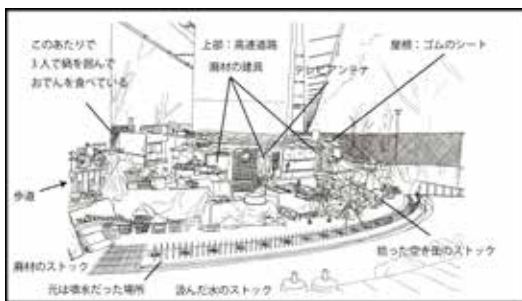


図4  
AIA6 スケッチ

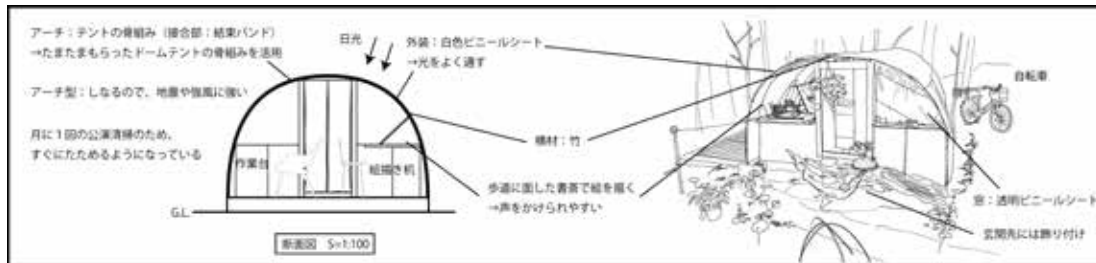


図5  
TYB1 断面図、スケッチ

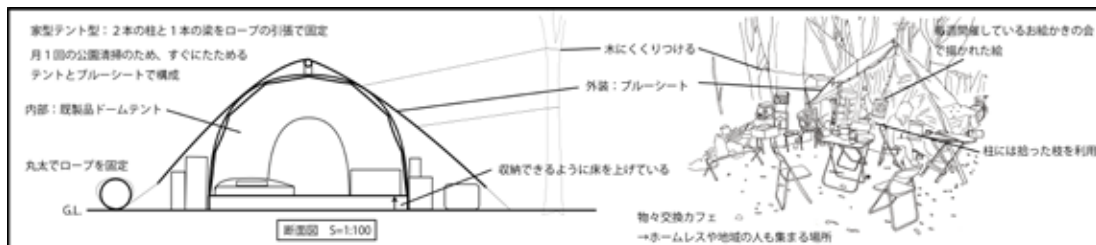


図6  
TYB2 断面図、スケッチ

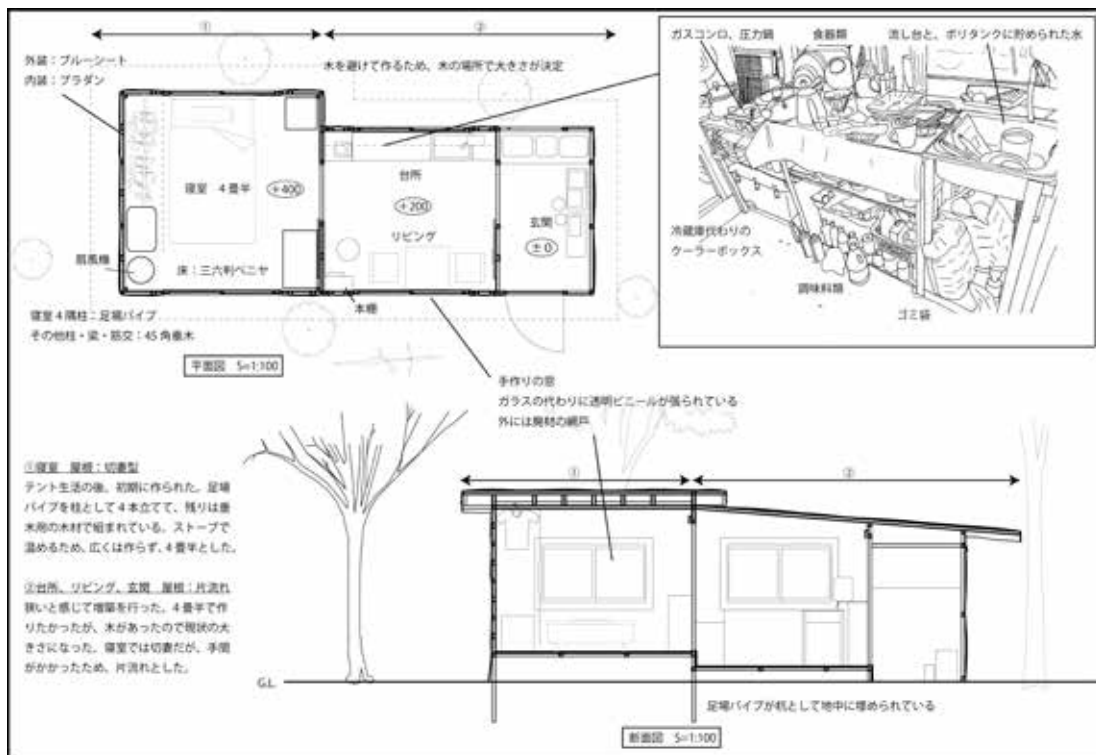


図7  
KNA1 図面、内観スケッチ

表3 材料一覧

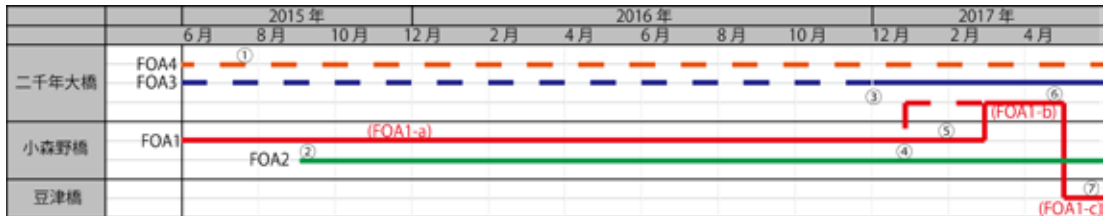
材料	ブルーシート	木材	既製品テント
特徴	防水性に優れ、安価で手に入れられるため、ほとんどのホームレスハウスで用いられる。屋根、壁そのもの、あるいは防水用の外装として使われている。入手方法としては買ったものがほとんど。	柱や梁、床材、壁、家具など幅広い用途で使われる。テントなどの場合もあるので使わない事例も多い。入手方法はホームセンターで買う、現場の廃材をもらってくるなど。	建てやすい為、使われている事例が多くみられた。ブルーシートを外装材として併用している事例がほとんどであった。使用理由として、折り畳みができるため、撤去勧告がこないからといった例がみられた。購入されたものがほとんど。
写真			
既製品タープ	ロープ	コンクリートブロック	ダンボール
ある程度の強度で、天井高も高く取れる。壁がないためブルーシート等で作成する必要がある。	固定、引っ張る、物を掛けるといった様々な用途に利用される。	基礎に使われる。重量があるため、川の増水から家を守ったという事例もあった。	壁に使われる。スーパーなどで無料でもらえるものだが、濡れると使えなくなるので、雨に濡れない場所であることが条件である。
			
銀マット	既製品ビニールハウス	竿	傘(、パラソル)
床の仕上げとして使われる。コンパネの上に敷く。	容易に大空間を作ることができる。	柱や家型テントの梁として利用でき、ある程度の強度を保ったまま、長い1本の材として使うことができる。ただ木材と違って長さの調節ができない。	雨を通さず、骨組みも組み合わせられているので、屋根や庇として使われている事例がみられた。
		写真なし	
自転車	すのこ	波板	発泡スチロール
構造材として使われている例がみられた。	もともと木材が等間隔で並べられ、板状になっているので、風を通しの良い目隠しとして使われる。隙間にものを引っ掛けられるといったメリットもある。テントについていたものを敷かず立って使っている例もみられた。	たまたま川に流されてきたものを拾って使った。	天井に使われている事例があった。
			



表4 形状一覧

形	家型テント	方形	陸屋根	ドームテント
特徴	屋根が壁の役割を果たす為、作り方も簡単。周辺にフェンスや木があれば柱梁がなくても引っ張りだけで構成することができ、雨じまいも容易。	正方形のアウトドア用タープに壁としてのブルーシートを被せた形。	柱梁構造としては作り方が容易であるが、屋根に雨がたまらない、しみこまないよう工夫が必要である。	市販のドームテントにブルーシートを被せた形。知識がなくても組み立てるだけで構造がもつので多くみられる。
写真				
タープ	アーチ	あずまや	依存型	特殊型
梁をもたず、柱とロープによる引っ張りや吊りだけで構成される。	部材をしならせる、あるいは既製のビニールハウスに外装材を張ることで成り立っている。	既存のあずまやを住まいと見立てて構成している。	橋の下など、屋根を既存の構築物に依存しているもの。	様々なものにブルーシートをまわりつけて構成するもの。
				

表5 FOA1の住み替え



- ①FOA4は建物はあったものの、FOA1が来たときから姿を見たことはない。
- ②FOA2がFOA1の隣へ引っ越してくる。FOA1はFOA2の家作りを手伝う。
- ③FOA3は一時いなくなっていたが、戻ってきた。戻ってきたという挨拶にFOA1のところへ来たときに隣に引っ越してこないかと誘われる。
- ④FOA1はFOA2とお酒のトラブルで仲が悪くなり、天井の広いところへ引っ越したいとも考えていたので、FOA3の住んでいる二千年橋へ引っ越すことを決意。
- ⑤200mほどの距離なので、2ヶ月ほどは小森野橋に住みながら建て、引越し。
- ⑥FOA1がFOA3ともめ、その勢いで出て行けといわれる。FOA3の酒グセが悪く、このようなことが何度もあったので、FOA2やFOA3から離れた場所に引っ越すことを決意。
- ⑦3週間ほど住んだ後、熱中症にかかったことがきっかけで市に相談。現在は施設で暮らしている。
- ⑧FOA1にヒアリング調査に同行してもらったときに、FOA3と再会。一時喧嘩となるも、誤解によって生まれたためことであったため和解。

## 2.3 材料

材料一覧を表3に示す。材料は、「性能」「コスト」「入手しやすさ」のバランスによって決められている。ブルーシートは防水の性能に優れており、木材は強度がある上に建築現場の廃材を譲ってもらえるため、それらの材料は多くのホームレスハウスで使われている。その中で、それぞれが独自の考えで使用している材料があった。雨に濡れないため無料で手に入るダンボールを壁とした使った例(図1)や、日光を取り入れるためにブルーではなく白色のビニールシートを使用した例(図5)、月1回の公園清掃でたたまないといけないため、簡単にたためるドームテントを使用した例(図6)、自らかつて建築に携わっていたため知識があり、廃材の建具を組み合わせる住まいを作った例(図4)などがみられた。

## 2.4 形状

形状一覧を表4に示す。雨漏りしない、広さがほしいといった「ニーズ」、組み立てるのが簡単なドームテントを選んだといった「技術」、撤去されないようにといった「周辺環境の影響」が形状を決定する要因となっている。建築の知識があるため、雨仕舞のために試行錯誤しながら切妻型や片流れ型にしたといった例(図7)や、しなるため地震や風に強いアーチ型にしたといった例(図5)がみられた。

## 2.5 空間構成

限られた空間に生活に必要な機能が詰まっている空間構成がなされている。部屋を効率的に暖めるため、必要最低限の部屋の広さのみとり、狭い空間の中でも荷物が沢山置ける玄関を設けるなど、コンパクトかつ自らのニーズに合わせた住まいづくりがなされている例がみられた(図7)。

## 2.6 住み替え作り変え

自分で敷地を見つけ、自分で住まいづくりを行うため、ニーズに合わせた住み替え作り変えが行われている。かつてテントで生活していたのを、足場パイプで建物を作り、更に広いスペースが欲しくなったので増築したといった例(図7)や、近くに住むホームレスに誘われた、隣人と喧嘩した、広いところに移りたかったといった理由で引っ越し、作り変えを繰り返している例(図8)(表5)がみられた。

## 3 ホームレスハウスにおける生活

### 3.1 生活の特徴

#### 3.1.1 収入

主な収入源としては缶拾いや廃品回収が挙げられた。ホームレスが仕事ができない理由の1つとして住所がないことがある。その中で何かしら住所を得ることで仕事をしたり年金をもらったりといった例[2]がみられた。また、アーティスト活動をして稼いでいるといった多様な収入源もあった[3]。

#### 3.1.2 生活全般

食事に関しては、食材を買ってきて調理するといった例が多くみられた。住まいづくりにおいても、炊事や洗い物をする設備が作られる(図7)。その中で、支援団体による炊き出しが充実している地域が多く、炊き出しに飽きたら缶拾いで稼いだお金で食べたいものを食べるといった例[4]もあった。

インフラが整っていない環境下で生活するホームレスにとって、水の調達方法を考えることは、敷地を選ぶことにも影響するぐらい大切なことである。基本的にはトイレや公園の水道で水を汲んで使う。東日本大震災のときに水が止まらなかった公園へ知人に誘われて住むようになり、現在ではその公園が唯一仙台に残っているテント村になったという例がみられた[5]。

入浴に関しては銭湯に行く、もしくは公園の水を浴びるといった例が多くみられた。サーファー用の無料のシャワーがあり、そこで体を洗うといった例もあった[6]。

#### 3.1.3 余暇活動・趣味

外で暮らすならでは余暇活動がなされている。植物が好きで、季節によって咲く花を楽しんでいるといった例[7]や、自分がアーティストであることを活かして、毎週絵を描く会を開いているといった例[8](図6)、趣味の夜釣りから、テントを張って寝るようになり、そのままホームレスに転じたといった例[9]がみられた。

### 3.2 コミュニティー

居住形態を集住型、集落型、個人型に分類する(図9)。

#### 3.2.1 集住型ホームレスハウスにおける人間関係

集まって住むホームレスがみられた。基本的には一緒に暮らす食事が別といった事例が多い。その中で、3人で1つの鍋を囲んで食事をとっていた事例(図4)や、親方が人を集めてきて、収入の管理なども一括であるといった例[10]がみられた。





図8  
久留米周辺地図

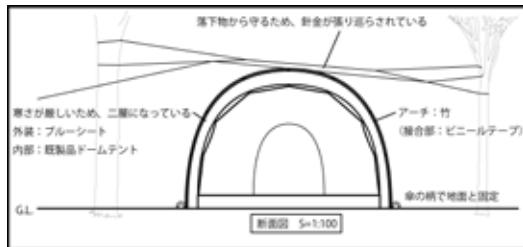


図10  
MGA3 断面図

	集合形態①		集合形態②		凡例
	集住型	個人型	集落型	単独型	
ダイアグラム					●：当事者 ▲：他人 □：ホームレスハウス
特徴	壁など建物の一部、リビングなど空間の一部を他人と共有しているもの	1人で生活しているもの	周囲に他人が住んでいるもの	周囲に人が住んでいないもの	
調査件数	11集住 29件	55件	20集落 264件	43件	
集合パターン	①建物の一部を共有している →集住型かつ単独型 	②集住かつ、周囲に他人が住んでいる →集住型かつ集落型 	③1人で暮らしているが、周囲に他人が住む →個人型かつ集落型 	④1人で生活している →個人型かつ単独型 	

図9  
集住型、集落型、個人型分類

### 3.2.2 集落型ホームレスハウスにおける人間関係

集落を形成するホームレスハウス群がみられた。きっかけとしては、管理の強さが関係しているものがあつた[1]。外で暮らすので、ホームレスハウス特有のコミュニティがみられた。隣に住む人の住まいづくりを手伝ったり(表5)、もらってきた廃材や食材を分け合ったり[11]している。

### 3.2.3 近隣ホームレスとの人間関係

缶拾いや炊き出し等で顔を合わせるため、集落でなくても近隣と顔見知りにはなる[12]が、あまり関わりはない。その中で、手に入れた空き缶を近くの人に譲るといった例があつた[13]。

### 3.2.4 地域との人間関係

地域の方とは通りすがりに挨拶をする程度の関わりであつた。その中でその場所の役に立っていると

いう例がみられた。SZB1では市民会館の花壇に足を踏み入れている人をやめさせたり、自転車置き場の近くにいたため、自転車の盗難が減つた[14]。また、テントを建てていることで安心して散歩できるといった声がある[15]。

## 4 ホームレスハウスの特性

ホームレスハウスづくりにおいては自らでその場の環境や状況に合わせて住まいづくりを行うため、様々な要因の影響を受けて形態が決まっている。そのため、場所性や地域性が現れる。同じドームテントの周りにブルーシートを被せるといった作り方でも、東京ではたたみやすいからといった理由であつた(図6)のに対し、仙台では寒いので壁を2重にしている(図10)といった理由であつた。

表6 ヒアリング内容

[1] (この場所を選ばれた理由は?なんでここに来たとかは?) それはね、話せば長くなる。白川(公園)住んでたんだわ。博覧会あったら (はい) あんとき追いつき出されたわけ。その条件にこの場所を、 移転場所を (ここは大丈夫?) いいってことじゃないけど、まあしょうが ねえかと。それでここに住んでる。だから今出てけとは向こ うも言えない。/AIA4	いたりとか。/TYB3 [9] (もともと荒川の河川敷に来た理由って何かあるんですか?) 俺釣りしててき、あ、いいなと思ってき。テント張って夜釣 りしてたから。めんどくせえからここに住んじゃおかって。/ STB2
[2] それで今は、住所登録もして、だから住所はここではないん だけど、教会の関係で、心の広い方で、住所を貸してくださ るって言うもんで、そこに住所登録をして住民票を置いて、 マイナンバーもきちんとして、税金も払って、保険証も持って、 働こうって格好ですよ。/KNA1	[10] (この場所を選んだ理由とか、ここに来られた理由って何かあ りますか?) うちの場合はほとんど親分が声かけてくれて。 長くいる人は長くいますし、1日でいなくなったりする人も いる。 (中略)(それぞれが稼いできたお金とかは?)一旦まとめて使 う/KNA2
[3] (普段お仕事とか、収入とかってどうされてるんですか?生活 されるお金は) 作品作ってうってるんだけどね。/TYB3	[11] ここに住んでる人たちはみんな廃材とか集めてきて、みんな で分け合ったりしてるので/KNA1 [12] (ここ以外に住んでる方で知り合いとかいらっしやいます か?) いるんじゃないかな?わたしはほら、基本的にそういう 人とは関わることがないんで。でも、顔見知り人間はいるよ。 私はカトリック教会に入りにしてるから、そういう関係で炊 き出しに行ったりすることがあって。毎日行くわけじゃない けど、週に2日3日充電しに行くから。/KNA1
[4] アルミ缶でね魚とかね肉とか買って食べてる。炊き出しはお んなじメニューなんで。たまには魚も食べたい。だからアル ミ缶で買う。/AIA19	[13] けどたまに気づいてき、かんかんいっぱい持ってくる人がい る。それは知り合いに全部もって行ってやりよるたい。/FOB1
[5] 友達が、前ここにいた人が、山形の人なんだけど、仲良かった けども、その人がこっちにおいでって言うから、近くにト イレもあるし、水もあるから。だからこっちの方に来て。 (トイレとか水場は近いところを使われてるんですね?) テニ スのところにトイレがあって、(震災時に)水が止まらなかった んだよ。/MGA1	[14] すごいんだよ。ここちょっと空いてるのわかる?みんなここ 渡っちゃうんだよ。ここね、近道だからってみんな通るの。 (ワイヤーがはってますね。)これ張ったんだよ。バスから降り た人が向こうへ渡るから。近道がないから。みんな通るから 枝が折れちゃってき、みんな踏んでわたっちゃうから。あた しが考えて、あたしがやってるの。 (マナーの悪い人も多いですね。)役に立ってるんだよ。あそこ にテレビのモニターがあってね、館長の部屋から見えるのよ。 だからね、出て行って言いにくい。結構役に立ってるからね。 (いいですね、そういうの、もちつもたれつ。)おまわりさんが 言うにはさ、自転車盗む奴がいるんだけどさ、前は多かつ たのに減ったんだよ。あたしか見てるから。お客さんも自転 車を安心して置けるって。自転車泥棒がいるだろ、そうす るとわざとさ、こうする(自転車置き場へ視線を向ける)。/SZB1
[6] すぐそこに公衆トイレがあって、そこにはシャワーもあるし き、水道も使えるし、だから水の便もいいよって。あ、ここ は確かにいいなと思って、それでここに住もうと思って来た。 /KNA1	[15] みんな散歩の人とかは挨拶してく。散歩に来る人は、テント 張ってるから安心して散歩に来れるって言ってたね。/MGA1
[7] 彼岸にいつも咲くから彼岸花。花好きなんだよ。 (いいですね、ここからきれいな見えますね)赤と白なんだよ ど、ここは赤。私の好きな色。植物好きなんだよ。 (いろんな花咲きますか?このへん) すごいよ、これ金木犀、 これが10月になるともうちょっとで咲くけどね。それからケ ヤキでしょ、かえと、これサザンカが12月ごろになると咲く。 楽しいよ。/SZB2	
[8] (この辺の絵とかも描かれたんですか?) これは、毎週火曜日 に集まって描いてる絵で。お金になるのは、外へ行って絵描	

## 5 結論

ホームレスハウス作りにおいては自らのニーズをきちんと理解しながら、不要なものは切り捨てるといった効率の良い住まいづくりがなされている。また、都市の人々の生活の中で溢れ出たものを活用しながら、余剰空間をうまく見つけて、生活を組み上げている。自分で作ったものであるため、完全体ではないことを理解しながら、住替え、作り変えを行って、壊れたら直すということを繰り返して住んでいる。利益だけを求めて集まって住むのではなく、生活の豊かさを求めた集住、コミュニティーづくりも行われている。ホームレスハウスには現代の住まいにはないコンパクトな生活があるといえる。

## III 自転車日本縦断記

### 1 なぜ自転車日本縦断なのか

私は小さいころからボーイスカウトに所属しており、テントを担いで自転車旅をするといったことは高校生のときにもやった。高1で京都と白浜、高2で愛媛まで、当時はママチャリで友人2,3人と行った(図11)。電車や自動車では早すぎて気づかないものに出会えて楽しかった。その記憶があり、自転車旅をするタイミングをずっと探していた。日本全国のホームレスハウスの調査をしたかったのと、自分が建築設計の道を進む上で、今まで暮らしてきた場所の常識しか知らないのはまずいという思いから、このタイミングに自転車で日本を縦断することに決めた(図12)。

### 2 人情に触れる旅

この旅は全行程で72泊73日であった(表7)。そのうちゲストハウスなどのお金を払って泊まったのが



図 11  
瀬戸内一周サイクリング

ママチャリの荷台に荷物をくくりつけている

27泊、テント泊が13泊、フェリーや夜行バスなどの車中泊が5泊、実家4泊で、残りの23泊は知り合いの家などに泊めてもらった。こちらから事前をお願いした人、SNSで縦断すると言ったらおいでと声をかけてくれた人、実家にお邪魔させてもらった人、簡易宿所の空きスペースに泊めてくださった方などさまざままで、本当に周りの人にお世話になった。

※以下本文は、

- 3 人情に触れる旅
- 4 スケジュール管理「日本縦断ノート」
- 5 自分の知らない日本
- 6 1人旅であること
- 7 自転車旅であること
- 8 まとめ

との章構成が続く。

この部分については、学術雑誌の趣旨とは少々異なる内容となるため、下記webに掲載することにした。

[http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/pdf/space21/21\\_noda\\_separate\\_volume.pdf](http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/pdf/space21/21_noda_separate_volume.pdf)

を参照いただきたい。

#### IV おわりに

この2ヵ月半非常に得る物が多かった。そして、水内先生、各地の支援団体の方々、沿道で応援してくださった方々、各地の知り合い、その他大勢の方に支えていただいた。この場を借りてお礼申し上げます



図 12  
名古屋まで応援に来てくれた友達に撮ってもらった

たいです。本当にありがとうございました。

表7 ヒ日本縦断スケジュール

